

■ 一般目標

新たな小児の診療分野である小児在宅診療によって子どもと家族を支援する意義を理解し、個々の症例に対して、子どもの発達を考慮した適切な医学的・社会的対応を院内・院外の関係機関と連携しながら行う。また、ホスピタリストとして医療や社会の変化に対応できる小児在宅診療を提示できる。

■ 当院の特徴

小児専門高度医療機関である当院では、急性期の治療後も、生命や健康の維持のために様々な医療的ケアを必要とする重症度の高い子どもたちが多く存在している。これらの重い病気を抱える子どもと家族が、退院後も安心して地域で暮らしていける、当院で高度医療を受けたことが良かったと実感できる支援体制を構築することが、ナショナルセンターである私達に求められている。

■ 各論：獲得目標

一般的対応

- ・ 入院中から退院後の生命や健康の維持のために必要な医療的ケアを含む小児在宅診療を必要とする子どもを理解し、必要な医療的・社会的な支援を子どもと家族に提示できる
- ・ 子どもの発達とトランジションを意識しながら、病態変化と年齢に応じた小児在宅診療を子どもと家族に提示できる

知識・技術の獲得とレジデントへの指導（評価シートと共通）

- ・ 退院後の生活を送る上で、医療的ケアなどの在宅医療が必要かを判断できる。
- ・ 患者の全身と、発達を考慮した医療を行う総合診療部の医師として、患者に最善の医療が提供できるよう各科医師との協働を積極的に行う。
- ・ 長期入院となりがちな在宅患者に対する入院中の医学的目標を多職種で共有できる
- ・ 医療的な問題だけでなく、患者・家族の願いや社会的な困難さを多職種で共有できる
- ・ 患者・家族に関わる多職種の様々な意見に耳を傾け、多職種をまとめることができる
- ・ 患者の病態の変化、発達、家族の必要とする支援の変化を理解し、適切な医療の提供や、デバイスの選択を行うことできる
- ・ 子どもと家族がなるべく病院受診しなくても済むよう在宅医の導入や、緊急時の受診を含め安心して日常生活を支援できる医療的支援を考えることができる
- ・ 適切な介入のための遺伝学的検査・診断について保護者に話すことができる
- ・ 呼吸に問題の多い在宅診療が必要な子どもの呼吸状態を評価でき、適切な医療介入を提案できる
- ・ 栄養・発育に問題の多い在宅診療が必要な子どもの栄養状態を評価でき、適切な医療介入を提案できる
- ・ けいれん、筋緊張の異常、睡眠障害、発達障害に対する介入の有無を判断できる
- ・ 排便、排尿に対する医療介入の有無を判断できる
- ・ 在宅医療を診療報酬のルールにのっとり行うことの重要性を理解する
- ・ 在宅医療における指導管理料と、加算の違いを理解して入力できる
- ・ 患者関わる各職種が患者の状態を理解できると同時に、各職種や、各施設で行える医療的ケアの限界を知って様々な指示書に適切に記入できる。
- ・ 保育、教育、就労を含めた患者・家族の地域での暮らしを医療者としてどのように支援できるかを考える
- ・ 予後不良と考えられたときは、適切な時期に看取りを含めた話が患者・家族とできるよ

- うに良好な関係性を普段から構築しておく
- ・ 患者が10代の時から、患者・家族とトランジションを見据えた話し合いや活動を地道に行う

- 研究活動
- ・ 地域の在宅医へのアンケート調査など、小児在宅医療における病院と地域医療機関との協働モデルの構築
- ・ AIを利用した保護者の介護負担の定量的評価
- ・ 保護者の介護負担の軽減を目的とする、AIを利用した医療的ケア児の非侵襲的モニタリングシステムの構築

- 発表
- 国内学会
 - 日本小児科学会総会
 - 日本小児科医会総会
 - 日本小児保健協会学術集会
 - 日本重症心身障害学会学術集会
 - 日本在宅医療連合学会
 - 日本医学会総会

- 国際学会
 - PAS